

熊本県庁プロムナードには、例年秋から冬にかけて黄色のじゅうたんが広がる銀杏並木がある。そこに、漫画「ワンピース」の主人公であるルフィの等身大の銅像が建立された。これを記念しての除幕式が18年11月30日に関係者のほか、約15000人のファンが見守る中、盛大に行われた。原作者である漫画家尾田栄一郎氏は熊本出身であり、同氏の熊本地震への復興支援に感謝の思いを示したとのことから設置されたもので、



建立された「ルフィ」像



復旧途上の熊本城の武者返し

31市町村が誘致を熱望

また、「ワンピース」のその他のメンバー8名の銅像も熊本県の各地に建立される予定で、現在、県下の31市町村が誘致を熱望している。16年熊本地震の震源地である益城町は、料理による子供たちの笑顔の復活を理由にコックである「サンジ」を、阿蘇大橋の滑落等甚大な被害を受けた南阿蘇村は、船医の「チョッパー」を第1希望とした。そのほか、井寺古墳等の被災文化財を復旧する意味で考

古学者の「ロビン」を、人吉市は球磨焼酎のPRに最適と、酒豪の「ソロ」を希望するなど、歴史や文化を踏まえ

一般財団法人日本不動産研究④

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

熊本県 大地震から3年

熊本の随一の観光地である阿蘇地域は、主要幹線道路や鉄道が不通で、地震の爪痕により観光産業は苦しい経営状態が継続している。そのような状況から、熊本県の観光客数の推移は低迷が続く(下グラフ)。17年は回復基調にはあるものの、県下市町村の多く

落ち込み続く観光産業

漫画が広げる地域の連携

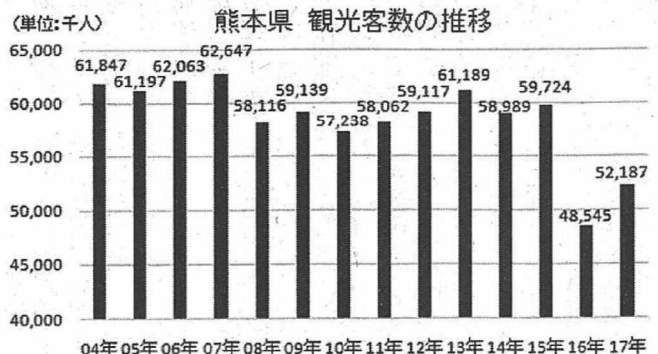
たストーリーをアピールしている。そこには被災地の復興と当該銅像を核とした観光振興の意向が垣間見える。16年の熊本地震の発生から約3年が経過しようとしているが、地震の影響はいまだに大きく残っており、復旧・復興の過程にある。熊本市のシンボルである熊本城は、至る所で復旧作業が行われており、手つかずの場所もあるなど、その再興までにはまだ数十年

漫画家育成拠点を開設

漫画つなごりの動きは他にもあり、昨年10月には東京の漫画出版社が、漫画家育成の拠点として熊本市へ分室を開設、20年には阿蘇郡高森町に漫画学校を開設予定である。

また、今年4月開催される「東京ガールズコレクション」とのコラボレーション企画として、2月6日から1カ月の期間限定で「ワンピースカフェ」が街中にオープンした。このように、漫画というコンテンツは不動産のあり方にも少なからず影響しており、「物と物」、「人と物」等をつなぐ媒介としての役割を果たしている。漫画を通じての地域の復興、地域間の連携が広がり、県下市町村の活性化の一助となることを期待している。

たかが「漫画」、されど「漫画」である。(熊本支所、不動産鑑定士・伊牟田徹)



(資料)熊本県「平成29年熊本県観光統計表」を基に作成